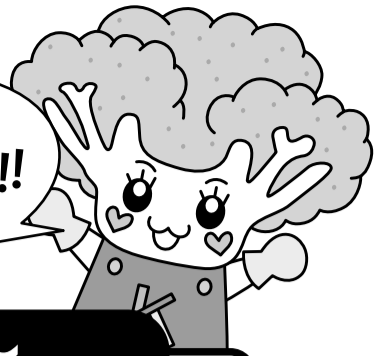


営農だより

うす播きで
健苗育成!!



3・4月のポイント～10の推進技術・5つの1ヶ月対策～

●うす播き (乾粃120g/箱) の励行

育苗期間(育苗計画)

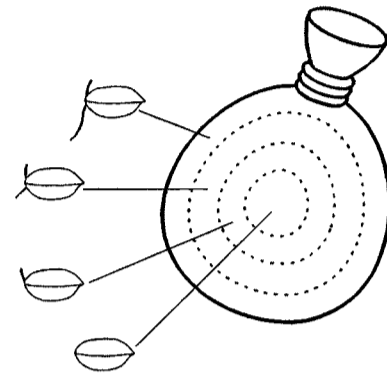
老化苗の移植を防ぐため、田植え時期に合わせた播種計画を立てましょう。(詳細は裏面を参照)

土・苗箱・種粃の準備

育苗箱・床土・種粃の目安(10a当たり)

	60株植	50株植
箱 数	18箱	15箱
床 土	90kg	75kg
種 粃	2.2kg	1.8kg

袋詰めのポイント



袋内の外側と内側で
幼芽・幼根の伸びに
バラツキがでます。
種粃は袋に半分程度
にして、催芽そろいを
良くしましょう。

種子消毒

【薬剤吹き付け種子を使用する場合】

- 浸種から開始(最初の3日間は種子消毒期間のため水を交換しない。)
- 消毒液温は10℃以下にしない。

※無消毒種子を使用する場合は営農ブックP44参照

浸 種

- 水温は10～15℃に保つ。
- 浸種期間の目安は積算温度(水温×浸種日数)で100℃以上、コシヒカリ等の休眠の深い品種は120℃を確保する。
- 浸種水量は種粃の2倍以上とする。水は1～2日毎に交換、後期は呼吸量が盛んになるので、毎日交換する。

種粃発芽向上のポイント

1. 浸種水量は種子粃の2倍(粃1kg:水2ℓ)
2. 浸種当初の水温は10℃～15℃を必ず保つ
3. 可能な限り、こまめに水の入れ替え

浸種期間の目安 (積算温度100℃以上)

品種名	水温	10℃	15℃
コシヒカリ ゆめみづほ		12日間	8日間
カグラモチ ひやくまん穀		10日間	7日間

催 芽

●催芽温度が高いと、もみ枯細菌病・褐条病の発生を助長する。

催芽温度	最適催芽程度	目安
30℃	1mm(ハトむね程度)	9割以上(発芽をそろえる)



※ひやくまん穀は他品種と比べ芽が出るのが早いのでご注意を!!

播 種

1箱あたりの目安		注 意 事 項
乾 粃 重	120g	●厚播は障害苗が発生しやすく、苗質を弱くします。 ●コシヒカリの播種は4月に行いましょう。 ●播種同時散布可能箱剤については裏面を参照。
催芽粃重	150g	

※ひやくまん穀は、コシヒカリの播種量より2割多くする。

か ん 水

- かん水量は1箱当たり0.8～1.2ℓで、箱の底まで床土が湿った状態が目安となります。
- カビ予防をかねて、ダコレート水和剤の500倍液を1箱当たり500ml灌注する

厳守

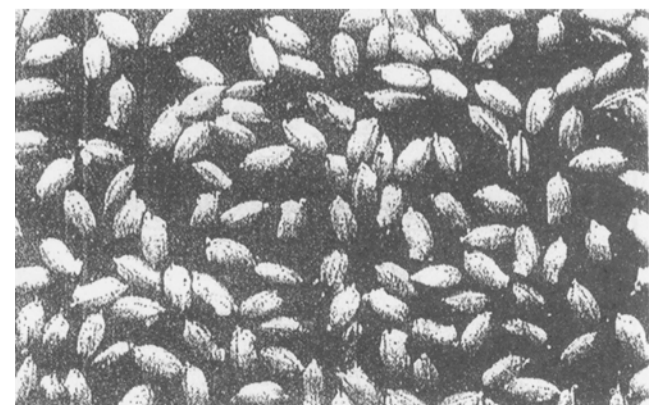
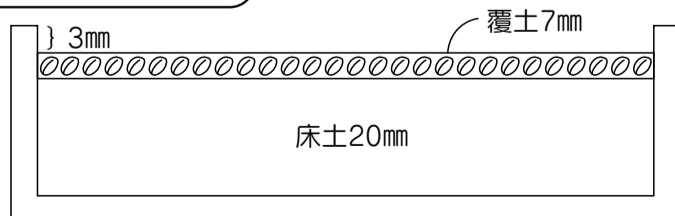
ダコレート水和剤の使用は、播種時から緑化期(但し播種後14日まで)で2回以内です。

※播種時1回、ハウス内(緑化期まで)1回の使用としてください。

覆 土

●覆土の厚さは7mm程度とし、1cm以上の厚さには絶対にしないこと。

床土・覆土の量



催芽粃150g(乾燥粃120g)播き【原寸大】

出 芽

温度ムラに注意し、芽の揃いを良くしよう。
出芽器内の温度は昼夜とも30℃にし、2～3日を目安とする。
芽の長さが8～10mm(ゆめみづほ10mm)が最適です。

裏面につづく

田植え時期に合わせて浸種を開始しよう！

播種は田植え時期から逆算して計画的に行いましょう。育苗期間は1ヶ月以内です！播種が早いと育苗期間が長くなり、老化苗になりやすく、田植え後の活着が悪くなります。また、ハウス管理にも負担が掛かります。

〈田植え時期と播種時期の目安〉

項目	田植え時期	5/1	5/5	5/10	5/15
浸種(10℃×12日間)		3/23~4/4	3/30~4/11	4/6~4/18	4/11~4/23
催芽(2日)		4/4~4/6	4/11~4/13	4/18~4/20	4/23~4/25
播種		4/6	4/13	4/20	4/25
出芽(2.5日)		4/6~4/9	4/13~4/16	4/20~4/23	4/25~4/28
ハウス管理		4/9~5/1	4/16~5/5	4/23~5/10	4/28~5/15
ハウス管理期間		22日間	19日間	17日間	17日間
播種~田植え		25日間	22日間	20日間	20日間

床土混和・播種時散布可能な育苗箱施薬剤

エバーゴルフオルテ箱粒剤 (ゆめみづほ・ひやくまん穀に使用)

使用期間: 播種前・播種時(覆土前)~移植当日
 適用病害虫: いもち病・疑似紋枯病・白葉枯病・紋枯病
 イネドロオウムシ・イネミズゾウムシ
 ウンカ類・ツマグロヨコバイ
 使用量: 育苗箱1箱当たり50g
 特徴: 移植当日まで使用可
 紋枯病に対して効果があり、ゆめみづほの出穂前防除を省略できる
 備考: ハウスで後作として作物を栽培する場合は使用しない

ファーストオリゼリディア粒剤 (コシヒカリに使用)

使用期間: 播種前・播種時(覆土前)
 適用病害虫: いもち病・イネミズゾウムシ・イネドロオウムシ
 ウンカ類・ツマグロヨコバイ
 使用量: 育苗箱1箱当たり50g
 特徴: 播種と同時にいもち病や初期害虫、ウンカ類、ツマグロヨコバイなどの防除が可能
 備考: 播種時(覆土前)までしか使用できない
 ハウスで後作として作物を栽培する場合は使用しない

~10の推進技術・5つの1か月対策の徹底~

目指せ加賀産高品質米!!

推進技術	目	標
1	播種量 (うす播きの励行)	●1箱当たり120g(太植による過剰生育の抑制)
2	育苗日数 (健苗の育成)	●播種から田植えまで (I)1か月以内 (初期生育の確保)
3	植付け本数 (細植えの励行)	●1株当たり3~4本(適正茎数の確保)
4	栽植密度 (優良茎の確保)	●3.3㎡当たり60株以上(適正茎数の確保)
5	適正な施肥 (栄養凋落防止と登熟向上)	●高温登熟・増収に対応した基肥一発施肥への切り替え ●生育状況に応じた追加穂肥の実施
6	田植え時期 (早植えの防止)	●5月田植えの励行(過剰生育の防止)
7	中干し・溝切り (遅発分げつの抑制)	●田植え (II)1か月後 からの実施(過剰生育の防止) ●中干し期間 (III)1か月間 (コシヒカリ)の遵守
8	除草・防除 (畦畔等除草とカメムシ防除の徹底)	●7月上旬までの追加除草 ●水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施
9	水管理 (飽水管理の徹底)	●中干し後から出穂までの約 (IV)1か月間 (コシヒカリ)の飽水管理 ●出穂から刈取り直前までの (V)1か月以上 の飽水管理
10	刈取り時期 (適期刈取りの励行)	●籾の黄化程度に応じた刈取り

